



映画を通して”知ることから”
SDGsシェアプロジェクト作品
<https://sdgsshare.info>

今まで見えなかった、触れることがなかった、知ることもなかった社会課題を映画・音楽を通して見つめる、触れることで共に解決方法を見いだせたら... 社会課題を映画化しているSDGsシェアプロジェクトの第三弾作品です。課題の本質を見出し、少しでも解決へ向かえるよう作品化して共有(シェア)していくプロジェクトです。

長崎被爆者オーラルヒストリー
ドキュメンタリー映画

a film by kazumi matsumoto

THE POWER OF LIFE
FROM NAGASAKI
生きる
nagasaki a-bomb survivor story

救われた命、生かされた命を生きる

生きてきた力
生きてきた力

原爆で被爆しながらも今まで生きてきた力とは...

“DIRECTOR” KAZUMI MATSUMOTO “SONG” ELEGY-BONNIE PINK “MUSIC” KANAKO ONO

“PRODUCER” YURINA ISHIHARA “CO-PRODUCER” YOSUKE ENDO “EXECUTIVE PRODUCER” MAKIE SONOYAMA

“PUBLICITY PRODUCER” TOKUJI IUCHI “MUSIC COOPERATION” NOBUO UESAKA

SHINICHI BUTATSU KAZUO HIRAYAMA MASAKO TSUBAKIYAMA KYOKO NAKAMURA HISAMICHI JYOSAKI ISAO NISHIMURA SUMIKO NAKAI KIYOKO
KITAURA HISAKO INOUE KAHO TOMITA “PUBLICITY+DISTRIBUTION” TENDER PRO “EDIT” mksdsgn “LLC ALBUM” “MA” TAISETSU FILM MAKER “PRODUC-
TION” SDGs Share Project. LLC ALBUM “PRODUCTION ASSISTANT” NATSUMI KAI “CAMERA ASSISTANT” KEITA FUJIE “SPECIAL THANKS” FUJIPACIFIC MUSIC
INC. TAISUKE Co., Ltd. origami PRODUCTIONS SDGs PEACE COMMUNICATION PROJECT TOKUSABURO NAGAI “SUPPORT” Life-da.Plus Japan Film
Foundation “PRODUCTION COOPERATION” NPO SUPPORT FOR WOMAN’S HAPPINESS SIMPLE LIFE ASSOCIATION “THANKS” KAZUNORI YOSHIDA
TETSU OTSUKA CHISEKO KAWAHARA YUMI TAGURI MASAKO MORIKAWA HISAKO TAKAHASHI SAYAKA KAJIIMA AYAKO ANNAKA TOSHIKO
TOMITA KANICHI TAKEUCHI SUSUMU SHIRABE MARIKO MINE YUTA YOSHIDA URAKAMI CATHEDRAL NAGASAKI GINYAMACHI CHURCH DEITZ
TOMOJI YOSHIDA The U.S. National Archives and Records Administration ©The Power of Life FROM NAGASAKI Film Partners

惨劇から77年を生きてきた生き様

世界情勢が急速に冷え込んでいっている今、再び核兵器の使用がほのめかされている。多くの犠牲者が出た長崎、広島への原爆投下から77年が経ち、それを忘れたかのごとく同じ過ちを繰り返そうとする。人類は学ぶことをしないのか…。

本作は、前作「a hope of NAGASAKI 優しい人たち」に続く、長崎被爆者の証言を集めたオーラルヒストリードキュメンタリーの第二作目である。

「長崎の鐘」の作者でもあり、医学博士の永井隆は長崎を代表する偉人である。それは自身も被爆しながらも多くの長崎市民を救護し、たくさんの命を救ってきたことを長崎の人々が忘れないでいるからだ。その永井と共に活動していた、または助けられた当時の永井を知る人を探し出すのが非常に難しかった。当時10才以上の者でなければ関わった記憶を辿ることが難しく、76年（取材時）の年月の流れを考えると、90才近くの方を探さなくてはならない。しかもゆかりを求めるとさらに難しい。昨年暮れに亡くなられた方の情報は取れたが…。時間ばかりが過ぎていったある日、当時一緒に救護活動をしていたある少女（当時）の情報が…。

また「a hope of NAGASAKI 優しい人たち」でアメリカ兵との出来事を語った思い出を再現。オルガンに向き合い、思い出の「きよしこの夜」を弾いた時、彼が思ったことは…。

壮絶な被爆を体験しながら、今も力強く生きている彼ら、彼女たちの力とは。様々な課題で生きる力を削がれていく人々が増える今の世の中に、被爆者の「生きる」力と思いを届けます。

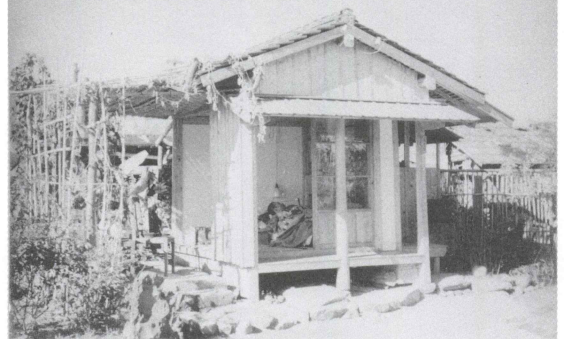
また本作「生きる FROM NAGASAKI」、先駆けて8月5日に公開される広島被爆者オーラルヒストリードキュメンタリー映画「for you 人のために」の主題歌「エレジー」を、BONNIE PINKが書き下ろした。様々な思いを感じながら、そして受け継いでいかななくてはならない思いを歌にした。シングルとしてデジタル配信される。

そして長崎を代表する高原至氏をはじめとした写真家たちが撮った、戦後の長崎の歩みが蘇る写真58点も登場する。写真から見える、そこにあった生きる力…。

エグゼクティブ・プロデューサーに食作家の園山真希絵を迎える。永井隆と同郷（島根県）であり、前作「a hope of NAGASAKI 優しい人たち」にも強く共感し、平和への想いを広く伝える。



如己堂に横たわる永井隆 ©永井徳三郎



新たな7名の証言

1945年8月9日11時2分、広島に続き長崎にも原爆が投下された。多くの犠牲者が出た惨劇であったが、生存した者たちも多にいる。その惨劇の中で、永井隆と一緒に救護活動を行った者も健在である。しかし年月とともに彼女にも変化が…。

終戦直後、家にアメリカ兵が立ち寄ってきて、オルガンを弾くように言葉で演奏していた少年。毎日のように彼らはやってきて歌うのは「きよしこの夜」だった。いつしか彼らとのコミュニティーが出来上がり、ある将官がついに妹を自分の娘にしたいと。その少年だった武立は、その思いを今に蘇らせるために向かった先は、とある教会である。

未だに被爆体験を話してこなかった被爆者がいる。風化されつつある原爆の事実がある家族のやり取りでも見られた。団らんの中、原爆を知らない親戚に「当事者の気持ちがわからんか!」と叱責したことを思い出す被爆者もいる。

そして「皆に支えられて生きてきた」と言う者も多にいる。差別や偏見がある一方、支え合う人々の思いも存在し、それぞれの生きてきた思いを綴る。

監督*松本和巳

主題歌*エレジー 作詞/作曲/歌*BONNIE PINK アレンジ*Shingo Suzuki 音楽*小野華那子
プロデューサー*石原ゆり奈 共同プロデューサー*遠藤洋典 エグゼクティブプロデューサー*園山真希絵
宣伝プロデューサー*井内徳次 音楽協力*上阪伸夫

<出演>武立進一 平山和郎 椿山政子 中村京子 城崎尚道 西村勇夫 中井澄子 北浦キヨ子 井上久子 富田佳穂 <編集>mkdsgn / 合同会社Album <MA>大雪映像社 <制作>SDGsシェアプロジェクト 合同会社Album <制作アシスタント>甲斐菜摘 <撮影アシスタント>藤江敬大 <特別協力>株式会社フジバシフィックミュージック 株式会社タイスケ(糸川成美) origami PRODUCTIONS(藤沢真友) SDGsピースコミュニケーションプロジェクト <協賛>Life-do.Plus(代表 中井厚志) 日本映画振興財団(財団長 友田ゆうき) <製作協力> NPO法人Support for Woman's Happiness 一般社団法人シンプルライフ協会 <協力>吉田和則 大塚哲 末長知恵 川原千世子 田栗由美 森川雅子 高橋尚子 貝嶋明香 安中絢子 富田寿子 竹内款一 調漸 三根真理子 吉田優太 浦上天主堂 長崎銀屋町教会 <資料協力>永井徳三郎 DEITz 吉田朋司 アメリカ国立公文書記録管理局 <製作> 映画「生きる FROM NAGASAKI」製作委員会 SDGsシェアプロジェクト ©映画「生きる FROM NAGASAKI」製作委員会

テアトルシネマグループと
SDGsシェアプロジェクト
第三弾作品

シネ・リーブル池袋

2022年8月19日(金)より

テアトル梅田

2022年9月9日(金)より

UPLINK 京都

2022年9月以降